

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	0391500063
法人名	株式会社 シリウスケアサービス
事業所名	グループホーム シリウス前沢
所在地	〒029-4208 岩手県奥州市前沢区二十人町裏160 (3/9より下記住所へ移転) 〒029-4209 奥州市前沢区あすか通四丁目8番15号 (電話) 0197-41-3220

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020－0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成21年2月17日	評価確定日	平成21年4月1日

【情報提供票より】(平成21年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 3 月 15 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤	1 人, 常勤換算 7.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	管理費15,000円、 おむつ、理美容代実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 300 円 夕食 350 円 または1日当たり 1,000 円	昼食 350 円 おやつ 昼食に含む	

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.3 歳	最低 65 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下河辺胃腸科内科クリニック、前沢歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、(株)シリウスケアサービスの運営するグループホームの一つであり、前沢駅近くに新たに開発された分譲住宅地の一角に位置している。一般住宅は、まだ多くは建っていないものの、近くには、保育園や養護学校、障害児施設、大型スーパーやコンビニのほか、市役所支所など交流資源がほど近くにある。若手で使命感をもち、リーダーシップのある管理者のもと、地域密着型のホームとして、より利用者の思いや希望をかなえるべく、全職員が職場内での研修を重ね、方向性を同じくしながら日々のケアに当たっている。利用者は時間があれば外に出て、広々とした環境の中で表情豊かに語り合いながらのんびりとした生活を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 初回調査につき、該当なし。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が自己評価票の記入にあたり、その意義を含め管理者とともに勉強会を重ねている。まだ具体的な改善事項の発見・集約には至っていないものの、職員が普段を振り返り、「ケアの難しさ」「業務の再認識」「やらなければならないこと」など、ケアの実践につながる数多くの気づきが得られている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 隔月に開催されており、内容は、事業所から利用者の状況説明や報告をするほか、避難訓練や夏祭り等の事業所主催行事についても協議し、委員の方から貴重な意見(祭りの商工会との連携など)を得て実施している。この会議を、課題協議のみならず「分からないことは相談する」あるいは「利用者参加可能な行事などの情報を得る」場、研修の場などとしても有効に活用したいとしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会は設けられていないが、毎月の職員・管理者の電話や手紙等で意見等を伺ったり、推進会議の場や家族の来訪時など、いつでも気軽に意見を出したり相談が出来るような雰囲気作りに努めている。今後は、事業所内に「相談・苦情箱」(仮称)を設置するなど、多くの意見等が得られるような工夫をしたいとしている。今のところ、特に出されている意見等はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣接した住宅も今は少なく、普段の散歩等でのお付き合いはあまりないものの、近くの保育園児の訪問が時々あり、楽しみながら絆を深め合っている。踊りボランティアなどの訪問も積極的に受けたり、夏祭りを商工会(加入)とともに開催したり、ひなまつり等地域の行事へ参加するなど、積極的に向かい合い参加・交流を行うなど、自ら地域とのつながりの輪を広げる工夫をしている。

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着は、まず地域・住民から信頼感を得ることが何より大切であるとの考えのもと、①思いを伝えやすい雰囲気②安心・安全・安楽③地域との交流という理念を、管理者が開設当初に定めて取り組んでいる。	○	今後、職員に利用者との日常生活の中で検証してもらい、わかりやすく、そしてホームの特徴を盛り込んだ理念として職員全員で作り上げていく予定である。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアプランの見直しや職員会議の議論に際して、理念に沿って方向性を決めるなど、常に理念を意識しながら日々取り組んでいる。事務室前に掲示して、職員に意識付けを図るほか、利用者・家族に対しても、重要事項説明書にも記載・説明するなど理念の浸透・共有にも努めている。	○	事業開始からほぼ1年、職員体制も整ってきたことから、あらためて、全職員で理念を再確認するとともに、その意識を高め合う機会を設けてケアに取り組むことを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接した住宅は少なく普段の付き合いはあまりないものの、近くの保育園児の訪問が時々あり、楽しみながら絆を深め合っている。踊りの慰問を受けたり、夏祭りを開催したり、ひなまつり等地域の行事へ参加するなど、交流の輪を積極的に広げる工夫をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がそれぞれ自己評価票の記入にあたり、その意義を含め管理者とともに勉強会を重ねている。まだ具体的な改善事項の発見・集約には至っていないものの、「ケアの難しさ」「業務の再認識」「やらなければならないこと」など、これからのケアの実践につながる数多くの気づきが得られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催されており、事業所から利用者の状況説明や報告をするほか、避難訓練や夏祭り等の事業所主催行事についても協議し、委員の方から貴重な意見(祭りの商工会との連携など)を得て実施している。「分からないことは相談する」あるいは「利用者参加可能な行事などの情報を得る」場として有効に活用したいとしている。	○	開催日程を調整しながら、より多くの委員の参加を得て、情報・意見を得ることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所への介護の諸手続き等は利用者とともに出かけ、その機会を担当者との情報交換を行う場としている。特に、市の栄養士の訪問を受けて、献立の資料や作成の留意点の指導を受けたり、市の指導でも有意義なアドバイスを受けたりするなど、相互の往来による連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者それぞれの暮らしぶりや健康状況について、職員の手書きの手紙で家族にお知らせするほか、管理者も別途、電話や手紙、利用者の様子を撮った写真を送るなどの密接な関係づくりに工夫をしている。新年度は、広報紙の作成を予定するなど、積極的に取り組むこととしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の職員・管理者の電話や手紙等で意見等を伺ったり、推進会議の場や家族の来訪時など、いつでも気軽に意見を出したり相談が出来るような雰囲気づくりに努めている。今後は、事業所内に「相談・苦情箱」を設置するなど、多くの意見等が得られるような工夫をしたいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後間もないということから、異動や退職は今のところない。今後、止むを得ず異動があった際には、職員間の引継ぎ・職員の話し合いを小まめに行なったり、異動者と利用者との面談を重ねるなどして、ダメージを最小限に抑えるべき工夫をしたいとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新たな事業・職員体制ということもあり、毎月管理者の一元的指導のもと、職員それぞれに身体拘束や感染症等の課題を課した内部研修を重ねて、その資質の向上・ケアに努めている。今後、職員の介護の力や仕事の内容に応じて、外部研修の機会確保に努めたいとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、会議や研修には管理者が主として参加して交流を図っている。職員は法人系列の研修会(2週間、2ヶ所、2人ずつ)に参加するなどして、ケアの実践に活かす取り組みをしている。これからは、県協会主催の勉強会や交流の場に、職員も参加するように取り組みたいとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的には利用前に見学や体験利用を経て、少しでも事業所の雰囲気や職員に馴染んでもらいたいとしているが、利用申し込み後直ちに利用開始というケースもある。幸い混乱する利用者はなかったものの、利用者の不安定があったときには、外に散歩に出るとか、寄り添うなど、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器拭き、洗濯物干しや洗濯物たたみなどは利用者と一緒にやっている。特にキュウリやトマトなど野菜づくり、ミズキ団子づくり・飾りなど郷土の行事食については、職員が教わるが多く、ともに学びあい、一緒に楽しむという基本姿勢で対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との信頼の絆づくりを大切にするため、センター方式を部分的に取り入れている。例えば、定まった時間帯での入浴や毎晩の晩酌、指定の店での買い物、自宅訪問等、その意向や思いを記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居宅ケアマネの情報や利用前の訪問面談の利用者・家族の聞き取り、観察情報をもとに、計画作成担当者と担当職員等で原案を作成して、ご家族に同意を得て、当初計画は、3ヶ月の暫定的なケアプランとして作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の短期目標の期間に合わせて、職員の意見を集約しながら、定期的に見直しを行うほか、利用者の状態変化等に応じて、随時、速やかに見直しを行い、利用者の状態に即した計画となるように対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望や思いに沿った買い物等の外出支援や保険関係書類等、行政に対する諸申請や届出を支援したり、遠方等家族の状況や要望に応じて、随時、柔軟かつ臨機応変な対応に努めている。自宅めぐりなどを希望する利用者には、できる限り応じるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族の希望するかかりつけ医となっている。定期的な通院の同行は家族を基本としているものの、遠方等家族の都合や緊急等の場合には、職員の同行受診するなど柔軟に対応している。その際、医師に伝えた状況等についても、家族に連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設後間もないことや重度化や終末期のケアの対象となる利用者がいないことなどから、今後、医療機関との連携を密にしながら、体制の整備や指針の作成に努めたいとしている。	○	利用者や家族の安心のためにも、重度化や終末期に対する事業所の対応(どこまで、どんなことができるかなど)、方向性や指針をまとめるなどして、その説明・共有がなされることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「コンプライアンスマニュアル」を作成・活用するほか、「心理的虐待」の勉強会を重ね、大声で排泄誘導をしないことや利用者より上目線にならないよう、利用者個人の尊厳に配慮した言葉かけや対応に努めている。個人情報記録については、事務室の鍵のかかる場所に整理保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かなスケジュールは定めず、それぞれの自由な時間・ペースで過ごすことができるような支援に努めている。行事等の企画は、利用者の希望等を聞きながら、職員で担当(持ち回り)を決めているものの、あくまでも利用者の体調や天候等と相談しながら実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者から聞き取った内容(散らし寿司など)を含めてつくり、食事の配膳・下膳や食器拭きは利用者と職員が一緒に行なっている。食事の席も知らぬ間にそれぞれ定まり、仲良し同士や職員との会話を楽しみながら食べている。時には自家菜園で採れた野菜が食卓を飾ることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はその回数の目安や順番などは決めずに、毎日午後に希望に沿った対応をしている。温泉等の入浴剤、一番風呂、二人で入りたい、職員との対話など要望に対応して、入浴が楽しくできるように努めている。入浴の苦手な方にも、タイミングを見て入浴誘導をするなど粘り強い支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事後の下膳や茶碗拭き、洗濯物たたみや野菜畑づくり、行事等のお知らせ書きなどに役割として携わってもらっている。またミズキ団子づくり・飾りや畑の草取りのほか、散歩や買い物などをして、ほどよい疲れや喜びをもって、毎日の生活が送られるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の体調や思い希望にそった外出の支援に努めている。散歩や買い物、ドライブ等を含めて、利用者の目を外に向けて、閉じこもりを防ぎ出かけようとする意欲・意識づくりを工夫しながら取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は「つけない、かけない」という共通認識のもと、ケアに取り組んでおり、日中はチャイムで来客等の出入りを把握している。なお、居室には鍵の設置はなく、徘徊等があった場合には、見守りや声がけなど心が安定するまで寄り添いながら対応したいとしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自に消防計画を作成し、避難訓練も計画的に実施している。まだ近隣住宅が少ないことから、災害の協力体制・ネットワークはつづられていないが、事前に訓練のお知らせと参加を呼びかけ、消火訓練を実施している。	○	近隣住宅の少ない場所における災害対応のあり方について、推進会議の協議・意見等を得ながら、その体制整備を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量については、利用者の食事の状態や嗜好、献立、バイタルや服薬状況に合わせて、職員が傍らで一緒に食事をするを通して見守り、毎日、一覧記録として整理・共有している。量や栄養バランスについては、市の栄養士の指導を継続して受けたいとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓や天窓から明るい光が差し込み、全館床暖房の暖かい事業所であり、出入り口の広い対面式の厨房からは、食事調理の姿が見え匂いも漂い家庭的な雰囲気・空間を演出している。畳のある空間、厨房にはカウンターを設けている。明るい窓からは、山などが遠くに見える、いつも四季を感じながら生活出来るような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ベッドや畳でも過ごすことが出来るように配慮されており、テレビや時計、盆栽や家族の写真等、使い慣れたものや自分の好きなものを持ち込んだり買ったりして置くほか、着替え等は事業所備え付けのタンスを有効に使うなどして、きちんと整理するなか、居心地よく過ごしている。		